



# 論説に対する読者からの意見

論説については、従来から読者からのご意見を歓迎しております。下記の論説の内容について読者からご意見をお寄せいただきましたので、ここに掲載いたします。

## 9月号論説『学生諸君、大学院は将来への投資だ!』に対する意見

津田孝雄 (有限会社ビコデバイス)

日本における大学院、特に大学院博士について、日本とアメリカの比較から論じられています。1) アメリカにおける修士課程は、博士課程の資格がないとみなされた学生が選択するコースであり、アメリカ社会は博士課程を基盤においており、修士課程が形骸化しています。一方、日本社会では、修士課程を非常に重要な学歴として扱い、社会構成がなされています。2) 博士課程に有意義な講義を増やして改善するとの提言は、有効でもあり、実験や思考の時間を減らすことになり有害な提言でもあります。アメリカからの輸入は、個人情報保護制度の導入に基づく社会構造変化や講座制度の形骸化、秋からの大学の授業開始の試み準備による日本の気候変動とそぐわない制度化、などアメリカからの制度の導入には日本にはそぐわなかった実績が多く見受けられます。アメリカを基盤に置いた思考でなく、日本独自の考えを提言されることが重要でしょう。また、優秀な博士課程を目指す学生を支えるには、返済義務のない奨学金が必要です。同時にポストクへの600万円の高額なサラリーの支給は半額にすべきです。

## 11月号論説『21世紀のエネルギーパラダイム転換』に対する意見

深尾謹之介 (千葉大学名誉教授)

趣旨はわかるが、細部に問題点が多い。万一、「細かい議論は無用」というのであれば、今非難されている原子力導入の際と同じことである。1) 節電発電所:スマートグリッドはどれも電力を使いやすくし、リスクを減少させるのが目的で、電力が発生するわけではない。電力の無駄が少し減るくらいか。2) ガスコジェネ:従来の火力発電所で捨てていた冷却水の熱を利用できればエネルギーの節約になるが、そのために小規模な発電設備を多数造るとすれば、設備費は増加するし発電効率は低下する。また、天然ガスも化石燃料の一種で無限ではない。国際相場が石油より落ち着いているのは投機がないからだろう。3) 自然エネルギー:気象条件が違うから「ドイツで可能なら日本でも」とは言えない。太陽光発電は日照時間に左右されるし、積雪地では不可能だ。風力発電も台風が多い日本では困難が大きい。以上は問題点だが、図2は重要だ。今後、図のようになれば問題はないが、それには電力の使用を大幅に削減して2050年には現在の半分にしなければならず、これを一般に納得させることが急務だろう。

## 12月号論説『新学習指導要領と高校の化学教育』に対する意見

田丸謙二 (東京大学名誉教授)

12月号の村田先生の「論説」を興味深く拝読しました。大学入試で化学の本質に触れない質の悪い出題をするために、それに対応させられる高校での教育の質が低下しているのです。この際、高等学校と大学の双方で議論を重ねるべきであるというご意見です。このことは私が日本化学会の会長をしていた時に同じような危機感を抱き、「大学入試問題検討委員会」を発足させました。しかし残念ながら、現在この委員会は本来の目的を遂行する運営がなされておりません。委員会発足以来十年余り、時代をリードするには知識よりも「基本に基づく発想力」がますます重要になってきています。大学入試が高校までの教育の質を決定づけるということは、ひいては、「国の将来を決める」ほどの影響力があるということです。この点を重々肝に銘じて、入試の実施や出題方法を含めて日本化学会の最重要事項として、会の優れた知恵を結集して、この問題に迅速に取り組み、具体的な提言をすることが、今、正に求められています。

論説に関する意見の掲載は、論説委員会の判断によるものです。